

会 議 概 要

第3回 【修斉校区】学校適正化に向けた校区懇談会

《開催日》令和4年10月26日（水曜日）

《時 間》19：00～20：30

《場 所》葛城地区公民館 講座室 1

《参加者》地域参加者：10名 教育委員会事務局：5名

<議題等>

- 1 開会
- 2 事務局挨拶
- 3 議題
 - (1) 事務局からの説明事項について
 - (2) 意見交換

事務局	(別添資料に沿って内容を説明)
参加者	補足資料にある学級数見込は、35人学級編制を前提としたものという理解でよいか。
事務局	小学校では35人学級、中学校では40人学級編制という前提で推計したもの。
参加者	35人学級について、1学年36人であっても、1人でも支援学級に籍を置く児童がいれば、通常学級は35人の1学級編制となる中で、修斉小学校の現2年生は、1年生のときには2学級で教室をゆったりと使え、わからないところがあればスムーズに相談できる環境であったのに、進級して掛け算等の基礎が必要な授業が始まるタイミングで1学級となった。保護者からは編制に対する疑問の声がいまだに上がっている。 現在は支援学級の児童が多くなり、通級学級に通う児童もいる。今後、更に支援学級の児童数は増えていくと思う。この編制の課題については対応してもらえないのか。
事務局	現行の学級編制では、通常学級の児童と支援学級の児童は異なる基準で編制するため、修斉小学校の2年生は36人だが、通常学級は1学級として編制している。

参加者	<p>一方、適正化の取組では、学校全体で一定の集団規模を確保することを目的としている。更なる少人数学級実現に向けては、今後も国や大阪府に要望していく。</p> <p>そうした見直しがなされれば、単学級ではなくなることもあると思う。</p>
事務局	<p>学年あたり 35 人前後の人数であればそうであるが、人口が減少し、児童数がピーク時の半分以下となる中、単学級の学年では 1 学級あたりの規模が今後更に小さくなることも見込まれる。</p> <p>仮に再編に関して一定の合意に至ったとしても、新たな学校の開校まではそこから 5 年程度の期間が必要であり、その間にも児童数は減少していく。現状では修斉小学校での複式学級発生は見込まれていないが、将来的にはそうした可能性も否めない。</p>
参加者	<p>修斉小学校は多くの学年が 1 学級と 2 学級のボーダーラインに近い児童数の中、結果的に 1 学級ずつの学校となっている。先ほどの学級編制に関してだが、仮に支援学級から通常学級に籍を移した児童がおり、通常学級が 2 学級となったとしても、その児童が支援学級で学ぶ時間もある中、籍を抜かれた支援学級側では手が回らなくなることが危惧される。</p> <p>以前は通常学級と支援学級のどちらでも人数として数える「ダブルカウント」があったが、それもなくなってしまった。岸和田市だけで決めることではないと思うが、ダブルカウントの復活についても要望等を行っていただきたい。</p>
事務局	<p>ここまでの議論は学級規模に関するものとなっている。今後も引き続き、学級規模の少人数化に向けて要望等を行っていくが、適正化の取組は、学校全体の「学校規模」について、一定の規模を確保することをめざす取組であることにご理解願う。</p>
事務局	<p>支援を必要とする児童生徒が増えているのは事実。これは岸和田市だけでなく、全国的な傾向。修斉小学校には通級学級が設置され、通常学級に籍を置いている中で、週に 1～2 回、少し支援を必要とする児童が通うことができる。</p> <p>支援体制の充実が必要となる中、本市では、支援員の人数を年々増やしてきており、特別支援教育がスタートした時点では市全体で 4 人の支援員だったが、今年度は 50 人以上配置している。このように、国に対して制</p>

	<p>度に関する要望を継続しつつ、市の中でも支援体制を整える取組を行ってきたところ。</p>
参加者	<p>資料 12 ページの意見に対する教育委員会の考えはどうか。</p>
事務局	<p>歴史と伝統のある修斉小学校を、地域の皆様がこれまで支えてこられたことは十分に理解している。一方、児童数の減少が続き、小規模化の課題があることは事実。修斉校区の子どもたちの今後の学習環境を考えると、再編が望ましいものと考えている。</p>
参加者	<p>修斉校区は神於山の麓に位置し、田園風景が広がる環境で、今度予定されているように、修斉小学校全校での神於山オリエンテーリングといった行事も実施可能。例えば修斉小学校を特認校とすることで、地域特性を活かしていくことはできないか。閉校としてしまうのはいかがなものか。</p>
事務局	<p>修斉小学校が自然豊かな良い環境だというご意見は理解するが、教育委員会としてはこれまで様々な案を熟議した結果として、現在の計画（案）をお示しするに至っている。</p> <p>仮に修斉小学校が閉校になったとしても、子どもたちや地域住民が引き続き活用できるような跡地活用方策を考えていきたい。</p>
参加者	<p>この校区は市街化調整区域で家を建てられず、農業しかできない。市全域で一律に計画を立てていくのではなく、もっと地域特性を活かす方向性で考える方が、魅力あるまちづくりにつながるのではないか。</p>
事務局	<p>市街化調整区域であるが、教育委員会としては子どもたちの教育環境を第一に考え、一定の集団規模を確保することが必要だと判断している。</p> <p>より良い教育環境と魅力あるまちづくりの実現に向けて、地域の皆様とともに課題解決に取り組んでいきたい。</p>
参加者	<p>取組周知のために、QR コードを記載したポスターを各就学前施設に掲示し、少しホームページの閲覧数が増えているということだが、前回懇談会以降、校区内で取組の認知度について聞いて回ったところ、半数も知らない状況であった。保育所や幼稚園の保護者についても同様の状況だと聞く。</p> <p>葛城中学校と修斉小学校で説明会を開催し、あとはホームページで取組</p>

	<p>を周知しているというが、内容をしっかり知っている人がどれだけいるか大いに疑問。本当は教育委員会がもっと周知し、みんなの意見を聴いた上で、懇談会で協議しなければいけない。</p> <p>現状の懇談会で出る意見は、私見。この場で方向性を見出していくわけにはいかない。懇談会を一度中断し、改めて取組内容を周知し、意見を吸い上げてから話し合わなければ、現状ではただ情報を下ろされて、その時々意見を述べるだけで、何も進まないのではないかと思う。</p>
事務局	<p>これまでの取組経過として、基本方針策定前には審議会を設置し、約1年間の議論を経て答申を受けている。それ以外にも、保護者、児童生徒、教職員を対象としたアンケート調査を行っており、多くの方が、小中学校ともに12～18学級が望ましいと回答している。</p> <p>基本方針策定後には葛城中学校を含む市内8箇所で開催を実施するとともに、町会連合会の会合での報告も行っている。実施計画（案）説明会については、学校や就学前施設を通じて保護者にお知らせするなど、あらゆる手段で周知に努めた上で、関係校区にて計20回開催した。</p> <p>それでも認知度が足りないというご指摘については受け止めた上で、引き続き様々な手段により、情報を発信していきたい。</p>
参加者	<p>前回懇談会で周知の必要性を訴えたところ、2週間ほどでポスターを掲示していただけた。そのように周知に取り組んでいただいているところではあるが、ポスターを掲示しているだけでは、見る人とそうでない人が出てくると思う。</p> <p>これまで説明会などを開催してきたということだが、教育委員会側が考える周知の度合いと、実際に取組内容を認知している保護者の割合とは大きな差があるように思う。できることなら我々もチラシを撒くといった周知が必要だと思うし、教育委員会側ももっと説明していく義務があると思うが、1か月や2か月では時間が足りない。そのような中で、5年後には計画を実施するということでは期間が短いのではないか。</p>
事務局	<p>意見交換の時期をいつまでに終わるといった考えはない。ただ、いつまでも同じ議論を続けていくということも、現実的ではないと考えている。</p> <p>ご意見を踏まえ、今後もあらゆる手段を講じて情報の発信及び周知に努める必要があると考えている。</p>
参加者	<p>教育委員会として、時間がかかる取組だと考えていることや、より良い</p>

	<p>学校をつくりたいと考えていることはわかる。ただ、泉州山手線の延伸までは、地域として引き続き開発の制限を受ける中、時間が経てば更に地域から子どもがいなくなってしまう。</p> <p>学校教育とまちづくりとは切り離せない。修斉小学校の特性を活かした教育というものがあっても良いのではないか。</p>
事務局	<p>学校教育とまちづくりの関係性については理解している。一方で、小学校の数が24校と変わらない中、児童数はピーク時の半分以下に減少していることは事実。また、泉州山手線の延伸によって人口減少を食い止めることをめざしているが、人口が必ず増加するとはまでは言えない。</p> <p>市として子育て世代の流出を課題に捉えている中、より良い教育環境を整備することで、課題解決を図りたいと考えている。</p>
参加者	<p>岸和田市の出生率は減っていないのに、子育て世代が流出している理由は、学校の魅力によるものだけではないと思う。市全体としての子育て支援施策が泉州地域内でも遅れている中、そこを何とかしなければ、この状況が続いてしまうのではないか。</p> <p>また、修斉校区は市街化調整区域で、緑を守る、農業を守る地域である一方、家を建てられない、人口を増やしようがない地域として指定されている。それにも関わらず、他の市街化区域と同じ尺度で、子どもの人数が少ないからと学校を閉校しようとするのはいかがなものかと思う。</p>
事務局	<p>子育て支援施策に注力することで、人口及び子育て世代の流出に歯止めをかけられるのではないかというご意見は理解するが、我々としては、学校の適正化を進めることで、より良い教育環境を創出し、子育て世代に選ばれるまちづくりにつなげていきたいと考えている。</p> <p>市の都市計画や総合計画等については、これまで市長部局が各地域に入って協議を重ね、作り上げてきたものと理解しており、現在市街化調整区域となっている地域においても、同様のプロセスを経てきたものと考えている。</p> <p>なお、近年は市街化区域内においても、人口減少が進む中で空き家が増加し、対策が急務となっている実情がある。国全体としても、市街化区域を拡大していく方向性ではない。</p> <p>国全体の人口が減少傾向にある中、本市の人口も同じく減少していく見込みであり、このままでは修斉小学校も現状から更に小規模化してしまう。複式学級の発生が見えてから取組に着手するのでは遅く、現時点から</p>

	<p>しっかりと取り組んでいく必要がある。</p>
参加者	<p>地域の人口や児童生徒数が、このままでは更に減っていくからこそ、行政としても何か手を打つ必要があるのではないか。</p> <p>地域としても、何かしなければいけないという考えから、まちづくり基本構想を策定し、転入増加に向けた方策を講じていこうとしているところ。努力せずに放ったらかしであれば、当然人口は減る。</p>
事務局	<p>本市行政としても、これまで人口減少を抑制する施策に取り組んできたところであり、それは他の自治体も同様である。ただ実際は、ごく一部の自治体を除けば、全体的に人口減少が進行している。</p>
参加者	<p>現在はこれまでと違い、リモート勤務が可能になるなど、多様な暮らし方が可能な時代となった。先日のニュースでも、東京都から北海道に一時的に移り住んで子育てをする人が増えているとあった。そのように、落ち着いた環境での子育てを希望する人が今後増えるかもしれない。これまでの岸和田市では、そうしたニーズの受け皿づくりや、呼び込みのためのPRは行ってこなかったと思う。今後はそうした取組も必要なものと考えている。</p>
事務局	<p>そうしたことも踏まえつつ、特認校制度も含め、より魅力ある教育活動を（仮称）葛城小中一貫校で行っていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>葛城中学校の場所よりも、より自然に近く、校区の中心に位置する修斉小学校の方が、特認校に適しているように思う。</p>
参加者	<p>補足資料の推計表には東葛城小学校の児童数も記載されているが、これは特認児童も見込んだ人数か。</p> <p>東葛城小学校の環境だから行きたいという人がいる中で、（仮称）葛城小中一貫校を特認校にしても、東葛城小学校に比べるとそうした考えの希望者は少ないのではないか。それならば、修斉小学校、東葛城小学校、天神山小学校それぞれで特色を打ち出して特認校とする方がよいのでは。</p>
事務局	<p>仮に市内で多くの学校を特認校とした場合、児童生徒の取り合いになってしまい、学校の小規模化が解消しないことが一般に想定される。</p>

参加者	<p>これまでも、短期間だけ修斉小学校や幼稚園に通ってくれた児童がおり、子どもたちも快く受け入れていた。通わせたいと思ってもらえる魅力があると思うので、それをもっと活かしていければ。</p>
事務局	<p>一定の集団規模を確保した上で、様々な活動を行える環境をつくっていききたい。</p> <p>特認校について、東葛城小学校では自然豊かな環境や1年生からの英語教育といった特色がある。(仮称)葛城小中一貫校を特認校とする場合、東葛城小学校の特色をそのまま受け継ぐというよりは、地域特性に応じた新たな特色ある教育を形作っていききたいと考えている。</p>
事務局	<p>先ほどのご質問について、推計表にある東葛城小学校の児童数見込は、東葛城校区にお住まいの子ども的人数から算出したものであるため、特認児童は含まれていない。</p>
参加者	<p>仮に計画(案)どおり、修斉小学校が閉校となった場合、その跡地はどうしていくのか。</p>
事務局	<p>跡地活用について、行政側で一方的に方策を決めるという考え方ではない。校地校舎は市の貴重な財産であることを踏まえつつも、地域のご意向もお伺いしながら、市長部局とともに方向性を定めていくべきものと考えている。</p>
参加者	<p>元々そこで学んでいた子どもたちが活用でき、大人も活用できるような跡地のあり方を考えなければ、子どもたちが地域に帰ってこないことになってしまう。</p> <p>他市ではどのような跡地活用の事例があるのか。</p>
事務局	<p>例えば公民館機能を設けたコミュニティ施設となる事例、民間企業が活用する事例、民間が運営しつつ、地域住民の利活用も可能な事例など、全国的に閉校となる学校が増加する中で、様々な活用事例がみられる。</p> <p>いずれにせよ、跡地活用の方策を検討する際には、地域の皆様と十分に協議することが大切だと考えている。</p>
参加者	<p>本日で修斉校区懇談会の開催も3回目となるが、教育委員会としては今後、どのようなゴールを描いているのか。</p>

	<p>多くの町会長は今年度末で任期満了を迎える。また一から新たなメンバーで懇談を継続するのも難しいことだと思うので、可能ならば今年度内に一定の答えを見出し、校区や各町会として、教育委員会に対する意思表示を行いたいと考えている。</p>
事務局	<p>教育委員会としては、協議の期限を設けることは考えていない。校区懇談会は、再編にかかる課題の抽出や、共通理解を醸成する場であって、施策を決定していく会議体ではないが、ご意見にあったように、校区として今年度中に一定の区切りをつけたいということであれば、そのご意向を尊重したいと考えている。</p>
参加者	<p>多くのメンバーが入れ替わる中、また一から説明した上で議論していくのも大変だと思う。</p> <p>他の校区のように、文章で意見を表明した上で、教育委員会に提出することになるのかはわからないが、修斉校区にとっては、校区内で学校の場所が移ることになる。校区内でも学校が遠くなる町、近くなる町があるため、意見が分かれる可能性がある。</p>
事務局	<p>葛城中学校の老朽化した校舎を大きくリニューアルすることで、魅力ある教育環境を創出したいと考えている。</p> <p>学校の更なる小規模化が避けられない中、今後、子どもたちの教育環境における課題も更に大きくなってしまう。賛否含めて様々なご意見があることは理解しているが、取組は間違いなく必要なものとの考えから、計画（案）をお示ししていることにご理解願う。</p>
参加者	<p>幼稚園や保育所へのポスター掲示だけでなく、小中学校の保護者に対しても、取組をより周知する方策を講じる必要があると思う。学校から児童生徒を通じてお知らせ文等を配布することは可能か。</p>
事務局	<p>より多くの方に取組を知ってもらうことは、重要なことだと捉えている。地域説明会の開催を周知する際に行ったように、学校から児童生徒を通じて保護者に文章を配布することは可能。</p>
参加者	<p>この計画に関わる対象は、現在の保育所・幼稚園・小中学校に通う子どもたちだけではない。開校時期を踏まえると、0歳児から関わってくるもの。それを踏まえた上で、保護者に広く周知すべき。</p>

事務局	これまで、公立だけでなく、民間の就学前施設を通じても広報するなど、広く取組を周知するよう努めてきたところだが、本日のご指摘を踏まえながら、今後もしっかりと対応していく。
参加者	他になければ、教育委員会に退席いただいた上で、懇談会の参加者同士でこの後話し合いを行いたい。
事務局	承知した。本日も多くのご意見をいただき感謝する。

以上